

駒澤書翰

第14号

発行日：
2024年3月17日
発行所：
株式会社エヌワイケー
〒154-0012
世田谷区駒沢5-7-6
電話：
03-3704-8391
FAX：
03-3703-7121
発行人：
横山和俊

スタッフ紹介 | 桜岡大介 |

早春の候、皆様におかれましては益々「清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は弊社取扱い各紙をご愛読いただき誠にありがとうございます。ご好評の「スタッフ紹介」。今号は、弊社社員「桜岡大介」(さくらおかだいすけ)を紹介いたします。

皆様、お世話になります、社員の桜岡大介です。駒沢店での勤務も丸1年が経ちました。私も前回の平井君同様、所長の移動に伴い大田区の馬込販売所より参りました。私は栃木県大田原市出身、昭和54年生まれ魚座のO型です。高校卒業後、実家から通える就職先も決まっていたのですが、東京での一人暮らしに憧れがあり、興味のあったゲームデザイナー系の専門学校へ進学しました。その時に日経新聞の新聞奨学生制度を利用したことが私の新聞配達の始まりです。上京当初は、やることすべてが新鮮で、仕事も学業も生活もとても楽しかったことを覚えています。もともと働くことは好きでした。高校時代は、朝は宅配便の仕分け、夕方は本屋、休日は引越などアルバイトを掛け持ちしていました。新聞奨学生を始めてから特に楽しかったのは集金業務です。まわりの奨学生仲間が一番集金業務が苦痛だとこぼしていましたが、今まで出会ったことのない他業種のお客様に会うことは、自分の世界が広がっていくようで、10代の私にとってはとても刺激的でした。

ゲームも興味はありますが、もともとは体を動かすことが大好きです。小中学生時代はサッカーに打ち込み、鍛えた足腰で高校時代は毎日片道10キロの道のりを自転車通勤しました。大田区時代はボランティアで小学生にサッカーのコーチもしました。この時はサッカーを教える難しさより、子どもにものを教える難しさを知りました。そのお陰で忍耐力がついたと思います(笑)。今でもサッカーは大好きで駒沢公園を通るとき練習しているチームがあるというつい見入ってしまいます。しかし、専ら見るのが専門になってしまいました。今はネットの発達のお陰で、世界最高峰のリーグも見ることができます。O型らしく大雑把なところもありますが、丁寧な配達、接客を心がけています。引き続きよろしく願います。



お世話になります、所長の横山です。「所長のひとひと言」では、日々新聞を読む中で「この記事、多くの人に読んでもらいたい」と思った記事を紹介しています。新聞は一覧性に優れた情報媒体です。広く世の中を知るには最適なツールです。私も社会人としての責任を果たすため日々楽しく新聞を読んでいます。

さて、自民党の裏金問題で紛糾する国会ですが、一連の報道で、自民党が多くの大金（裏金）を使い権力を維持してきたことが露見しました。権力を維持する、つまり選挙に勝つためには使えるお金が増えるほど有利であるという事実が改めて示されました。これは、献金ができる大企業やお金持ちのための政治になってしまうことを意味します。もちろん自民党の派閥解消も政治資金規正法の改正も大事ですが、根源はお金のかからない、民意がしっかりと反映される選挙制度の確立です。残念ながら現在の少子化問題も、円安も、エネルギー問題もその「政治」が民意を歪めたと思っています。その結果、政治に対するあきらめが最近の投票率につながっているのではないのでしょうか。2月28日付毎日新聞オピニオン「裏金事件と民主主義」にて、同志社大学・吉田徹教授の斬新な提言がありました。吉田教授と言えば北海道大教授時代より日経・毎日両紙面にて度々するごい分析を寄稿してきました。今号は吉田教授の「くじ引き・市民の熟議で」を紹介します。

今の日本において政治不信の高まりは、他国のようにポピュリズム（大衆融合）勢力の台頭よりも冷笑的不信という危機に陥りつつある。「くじせ…」とはなから諦めてしまっっては、「自分たちで自分たちを統治する」という民主主義の理念は実現しない。しかし、今信頼を失っているのは、選挙によって代表者を選ぶ代議民主主義の制度であり、民主主義の理念に絶望しているわけではないはずだ。民主主義の形は多様だ。私は、古代アテネなどで行われていた無作為に抽出された市民が、熟議と討議を通じて合意形成を図る「くじ引き民主主義」を提案している。具体的には、まず、年齢・性別・居住地域などの人口構成が母集団（国や地域）に近くなるようにサンプリングする。代表として選ばれた市民に対して、正確で公平な情報を事前に提供した上で、参加者同士が十分な時間をかけて熟議と討議を行うものだ。代表制では、政治家と国民のギャップが不可避免的に生まれ、不信の元になるが、母集団に近い構成で議員を選べばギャップはなくなる。また、くじ引きによる選出は選挙を意識することがないので中長期的な課題に取り組めることも利点だ。選挙では、自分の「答え」に合う政党や候補者を選ばなくてはならないが、それでは「答えのない問題」に対応できない。くじで選ばれた市民が熟議と討議を重ね、互いに知恵を出し合うことで納得感のある政策を構想すれば答えに近づける。ただし、今の代表制を完全に置き換えるべきだとは思っていない。代表制の欠点の補完を狙いだ。例えば、地球温暖化、少子高齢化、人口減少などの価値観の違いや財政上の制約などで有権者全員が納得することが難しい問題こそ「くじ引き民主主義」は向いている。

民主主義の根本原則とは、自分たちのことは自分たちで決め、決めたことにはみんな従うことだ。くじ引き民主主義は、「自分たちで決めることができる」と実感できる要素がある。冷笑主義が広まっている日本こそ、有効な手段のはずだ。

「くじ引き」などと聞くに荒唐無稽のような気がしてしまいます。事実、私も吉田教授の「くじ引き民主主義」は紙面で見た記憶がありますが、以前は全く胸の刺さらず切の抜きもありませんでした。しかし、くじ引き民主主義が的外れではない証拠に、欧州を中心にすでに行われているといえます。最終的な意思決定を目標することもあれば、住民の意見集約として利用することもあるそうです。日本でもすでに自治体レベルでは始まっています。街じゅうの空気変動問題など特定のテーマについて無作為に選んだ市民の議論を政策に反映させるケースが増えているそうです。吉田教授の言うように、母集団に近い代表の熟議、討議は明らかに民意を反映させやすく納得感を得られそうです。冷笑的不信を取り払うには、まず自治レベルでも納得感を得て、政治不信を少しずつ払拭し投票率向上を目指すのが近道かもしれません。